

一 般（個 人）質 問 通 告 一 覧 表

令和 6 年第 6 回笠岡市議会定例会

1 2 月 4 日・5 日・6 日（3 日間）

通 告 者	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	答 弁 者
1 桑田 昌哲	1 笠岡市財政健全化プラン（素案）について	本市は、本年 8 月に今後 10 年間の中期財政見通しの推計を行い、財源不足が生じることを公表し、栗尾市長は市民に対する笠岡市財政状況の説明を実施した。市民の方は不安に思われていて、そんなに笠岡市の財政が悪いのかという言葉を会うたびにかけられ、ほとんどの方に改善策の内容を尋ねられた。11 月 18 日の全員協議会で栗尾市長から笠岡市財政健全化プラン（素案）が出された。財政健全化に向け、事業精査をされているが、この素案だけでは、事業の継続、廃止、一部見直しという内容だけにとどまり、市民が期待していた、明確な改善内容の提示まで至っていないと考える。市民の不安解消を図る意味を含め、栗尾市長らしさによる夢と希望の作り方について、以下 3 点を尋ねる。 （1） 事業の見直し案等により、平均約 12 億円の改善効果額を出し、年平均 2 億円の黒字を達成する見込みである。黒字額は新規施策や凍結したハード事業の実施に活用とあるが、栗尾市長が目指す新たな事業指針について尋ねる。 （2） 笠岡市財政健全化プラン実施による黒字額は、凍結したハード事業の実施に活用とされていることについて、栗尾市長は本庁舎建替事業を最重点項目と言われている。防災拠点や市役所職員の安全管理においても重要であると考えますが、現在、事業の削減などの見直しを実施している状況で、本庁舎建替事業の今後の見通しを尋ねる。	市 長

		(ア) 本庁舎建替事業の今後の見通し (イ) 様々な災害時の拠点になるとして、災害時の電力確保は大切であり、建て替え時には検討が必要となるが、非常用電源確保「地域マイクログリッド」をどのように考えるか尋ねる。 (3) さらに財政健全化に向けて、来年度以降に具体化し実施するとしているものの中に、市関連の地域組織や団体等の統合・見直しとある。昨年度、総務文教委員会の政策提言「まちづくりについて」において次の3つの提言がなされた。この提言をどのように組み込むのか。あるいは提言は組み込まない内容とするのか、以下3点を尋ねる。 (ア) 様々な組織と仕組みについて (イ) 交付金などの財源と使い方について (ウ) まちづくりの意識について	市 長 〃
2 笠岡市の道路・水路等の安全管理について	近年、大雨・集中豪雨の影響で、道路の陥没事例や水路等への転落などの事例が国内で多くなっているとの報告がある。 道路陥没では、今年9月に発生した、千葉県市原市の国道16号線が4車線に渡り陥没した事例がある。この道路は、国土交通省の一次緊急輸送道路となっている道路である。 本市に置き換えれば、一次緊急輸送道路は、国道2号線からのロータリーから笠岡井原線(県道34号線)となり、二次緊急輸送道路は、笠岡美星線(県道48号)となる。 笠岡市内の道路大動脈ではと考えるが、この道路で千葉県であったような陥没の発生が懸念される箇所はないか。 また、水路等では、2022年11月に発生した、福山市の公園で子供が水路に転落し、亡くなった事例がある。		市 長 〃 〃

		どれも事故が発生しないとわからないという点では同じであるかもしれないが、危険箇所を事前に把握し、改修や改善などの安全管理が必要であるとする。市の管理外の道路・水路等における点検確認や安全管理についてどのように対応しているのか、以下を尋ねる。 (1) 緊急輸送道路の点検等の状況を市はどの程度把握しているのか。 (2) 水路等の安全点検を市としてどの程度実施し、管理できているのか。	関係部長 〃
2 大山 盛久	1 市政運営の考え方について 2 市長公約について 3 有害鳥獣被害対策について	11月18日に笠岡市財政健全化プラン(素案)を公表されました。今回は、公民館を回っての説明会はされないとのことなので、本会議においても一度、財政難の中での栗尾市長の今後の市政に取り組む基本姿勢についてお尋ねします。 栗尾市長は、市長立候補の際に笠岡の未来を守りたいと言うことを述べられ当選されました。学校規模適正化計画改訂版の策定が予定されている中、今回は、その中でも子育て世代が関心を持たれている次の4つの無償化について、財政難の中、いつされようと思われているのかを具体的にお尋ねします。 (1) 放課後児童クラブの無償化 (2) 学校給食の無償化 (3) 高校生までの医療費の無償化 (4) 2人目以降の保育料の無償化 岡山県がまとめた2023年度の鳥獣捕獲実績によると、1985年度以降でイノシシは4番目の3万245頭と、高い水準で推移しました。許可捕獲頭数が全体を押し上げており、農作物被害を防ごうという農家の自衛意識の高まりとともに、許可捕獲頭数に対する助成制度の浸透も伺えます。11月2日の新聞で、玉野市では新制度	市 長 市 長 〃 〃 〃

		を進める中，増え続ける有害鳥獣のイノシシの対策で駆除体制が揺れているという報道がありました。財政難の中，笠岡市は令和 7 年度からはどのようにするのか，以下，お尋ねします。 (1) 猟友会との関係 (2) 報奨金・協力金の問題 (3) 地域住民組織との関係 (4) 鳥獣保護区のイノシシの駆除について	関係部長 〃 〃 〃
3 齋藤 一信	1 公営住宅(富岡)建替事業凍結について 2 地方税収減収の影響について	このたび，笠岡市は大規模ハード事業見直し案を公表した。中でも公営住宅(富岡)建替事業凍結についてお尋ねします。 (1) 市が想定する，住民に対する影響についてお示ください。 (2) 高齢者を取り巻く富岡市営住宅のコミュニティ維持について，市でできるサポートはあるのでしょうか。 (3) 老朽化による生活環境悪化が及ぼす住民への影響を市はどう考えていますか。 (4) 今後の同事業はどのように計画がなされていくのでしょうか。 現在，自民・公明両党と国民民主党において議論されている，いわゆる「103 万円の壁」を見直すことにより国民民主党の主張どおり所得税の控除額を 178 万円まで引き上げた場合，笠岡市ではどれくらい減収が見込まれるのでしょうか。また，そのような減収が見込まれた場合，財政が危機的な状況にある現在の笠岡市にどのような影響を及ぼすのでしょうか，市のお考えをお示ください。	関係部長 〃 〃 〃 市長
4 井木 守	1 笠岡市財政健全化プラン(素案)について	11 月 18 日に笠岡市財政健全化プラン(素案)が発表されました。市民からは，財政状況を憂う声と同時に，今もって「何にお金を使って財政が厳しくなったのか」「誰の責任なのか」といった声が聞こえてきます。また，「市民生活への影	

		響が大きいのでは」といった声，職員の賃下げ提案についても「職員の賃金に手を付けるのは，最も無能な経営者のやること」といった声も聞こえます。以下，７点質問します。 (１) 行政改革推進債は、どのような性格の地方債なのか。行政改革推進債を発行することによって、逆に「行革」を強いられるとか、負担が増えることはないのか。 (２) 様々な補助金や事業の廃止などが計画されているが，補助金が減額されれば，事業そのものが立ち行かなくなるなど，影響があると思うが，関係団体との事前の調整はできているのか。 (３) ＪＲ笠岡駅南周辺整備事業などは凍結になっているが，(仮称)篠坂パーキングエリアスマートインターチェンジ整備事業や国道２号線バイパス関連事業は継続となっている。凍結とした事業と継続とした事業の判断基準は何か。 (４) １１の大規模事業は「凍結」とあるが，凍結後の財政のシミュレーションはどうなっているのか。 (５) 企業立地促進奨励金と事業用地造成促進奨励金は継続，物流施設誘致促進奨励金は一部見直し，新設工場設置奨励金は廃止となっている。企業誘致そのものは否定しないが，もっと大胆に見直すべきではないか。また，今後支払いが予定されている企業についても，支払いの延期等を申し入れるべきではないか。 (６) 職員の賃金について，市長は「安易に手を付けることはない」と市民説明会でも発言していたが，なぜ，今回，賃下げを提案したのか。	市 長 〃 〃 〃 〃 〃
--	--	--	---

		(7) 全員協議会では、笠岡市財政健全化プラン(素案)と同時に、組織機構改革も説明されたが、笠岡市財政健全化プラン(素案)とどのような関係にあるのか。 前市長の職員に対する発言について、「笠岡市ハラスメント対策委員会」は、ハラスメントに該当するとの判断を示しました。この結果を受けて、さらにハラスメントの根絶を進める必要があります。 以下、質問します。 (1) 今回の委員会の結果を受けて、市としてどのようにハラスメント対策を強化するのか。 (2) 職場アンケート等にも取り組んだようだが、職場からは、どのような訴えがあったのか。 (3) 市民病院では、一部の職場でハラスメントが過去にあり、現在も改善されていないとの訴えがあったが、実態はどうなっているのか。 (4) 市民病院には、数年前から「ベットコンローラー」という職種が設けられているようだが、どのような経緯で、また、どのような組織的な議論の中で設けられたのか。	市 長
	2 パワハラ対策について		市 長
			〃
			〃
			〃
	3 学校規模適正化計画の見直し議論について	学校規模適正化計画の見直しについて、市民との意見交換会が進められています。市民からは様々な意見が出されていると思います。現時点で、どのような意見が出されているのか、また基本的な視点について、以下、質問します。 (1) 市民からは、どんな意見が出されているのか。 (2) 基本的な考え方として、中学校ではクラス替えができることを上げているが、なぜか。	教育長
			〃

		(3) 危険地域に新たな学校建設はしない、とあるが、現存する中学校は例外ということか。 (4) 説明では、市内の中学校は、特認校を合せても将来3校程度と説明されたが、教育委員会としての腹案はあるのか。 (5) 直接の当事者である「生徒」、「子供」の意見は、今後どのように反映されていくのか。	教育長 〃 〃
5 西山 博行	1 今後の教育環境、各学校の連携状況などを横断的に共有し考える庁内の組織作りについて	現在笠岡市では「笠岡市内小・中学校規模適正化計画改訂版」の策定に取り組んでいます。加えて県立高校は笠岡工業高校の再編について検討されています。 笠岡市の教育環境が大きく変わろうとしている現段階で、笠岡市の小中高の教育環境について考え、方向性を共有する必要があると考えます。 (1) 小中一貫教育だより「つなぐ」No17, 令和5年2月号では「令和5年度は中学校ブロックの愛称となる学園名を決め、学園でめざす子供像に向けて小中一貫教育に取り組んできました」と書かれています。令和6年12月現在の市が進めている小中一貫教育の現状と課題を教えてください。 (2) 小中一貫教育により小中の連携は取れていると思いますが、笠岡市の教育と連携は小中だけではなく、高校を含めて考えるべきだと考えます。 9月の一般質問のお答えとして「市内の県立高校3校では、昨年度より教育の充実と地域活性化を一体的に促進していくことを目的とした笠岡コンソーシアムが設置されており、その役割の一つとして笠岡3校と地域社会、地元小・中学校及び関係機関とをつなぐなど学校の活動のコーディネー	教育長 関係部長

		ト役を担っています。 各高校には学校運営協議会があり学校の運営に関して協議をしていることから、小学校から高校までの連携を効果的に進めるためにこれらを統括し、推進する部署の設置は考えておりません」といただきました。確かに小中と高校の連携は各高校単位で行われています。コンソーシアムや協議会も動いています。 しかし、現状各高校がそれぞれの教育方針に沿って進んでいることにより、思っている以上に高校間の連携の状況は庁内で把握しづらくなっているのではないかと感じます。 9月より状況が変わりつつある今、笠岡市の学校編成を含めた教育環境を小中高と包括して考え要望を取りまとめ、小中高の連携状況などの情報を共有する部署、あるいは窓口の設置についてどのように考えているのか、改めて伺います。	
2	公式LINEの登録者数目標値について	笠岡市の目指すまちづくりのなかの「4横断的施策」の2「DXの強力な推進」で、コミュニティLINEの普及と笠岡市公式LINE登録者数2万人と記載されています。 (1) コミュニティLINEの普及とは、具体的にどのようなものを考えているのかお尋ねします。 (2) 11月末時点での公式LINEの登録者数は9,729人です。登録者数2万人という数値目標はどのように設定されたのか伺います。 (3) 登録者数2万人を達成するための具体的な方法として、どのようなことを検討しているのかお尋ねします。	関係部長 〃 〃

	3 笠岡市の関係人口を増やすための庁内連携について	笠岡市は人口推計のとおり人口減少社会に進む中であっても持続可能な地域づくりを進めていく必要があります。そのためには移住した定住人口ではなく、観光にきた交流人口でもない、地域や地域の人々と継続的に関わりを持つ関係人口の創出と拡大が重要な事項です。関係人口は、地域の活性化や地域づくりの担い手確保にもつながります。 (1) 関係人口について、笠岡市としてはどのように考えているのか見解をお尋ねします。 (2) ふるさと納税をしていただいた方々や笠岡市出身の方々など、笠岡市とつながっている方たちにイベントや観光などの情報を提供し笠岡市を訪れていただくなど、関係人口を増やすような具体的な計画はあるのか、または既に実施しているものがあるのか伺います。 (3) 笠岡市が保有するインターネット上にあるコンテンツや他団体が保有する影響力を持ったコンテンツを使用し、関係人口を増加させる方策はありますか。また、そのためには庁内の部署や他団体の横連携が重要だと考えます。関係人口を増やすための連携について、現段階の状況を伺います。	市 長 関係部長 〃
6 仁科 文秀	1 バスを中心とした公共交通について	住み慣れた地域で安心して生活をするために、公共交通の改善を求める市民の声は年々高まっている。 平成 24 年に井笠鉄道株式会社が破綻し、両備グループが後を引き継ぎ、ほどなく中国バスによる暫定運行が始まった。翌年には井笠バスカンパニーが設立され、本格運行がスタートした。そして、市民との交流が図れる場所として、交通交流センターが完成し、現在に至っている。	

	その間、人口の減少や便数の減もあって、路線バスの利用者数は減り、反対に事業者への補助金は毎年のように増えて、井笠鉄道時代を上回っている。 本市では、地域の実情に合った持続可能な公共交通ネットワークの実現に向けて、令和6年度から10年度までの5年間を期間とする地域公共交通計画を策定した。 (1) 井笠バスカンパニーによるバス運行が10年余り続いてきたが、この間の運行や取組について、笠岡市としてはどう総括しているのか、尋ねる。 (2) 笠岡市はバス事業に対して、市民の移動手段を守るもの、なくなっては困るものとして、事業に対してずっと赤字補填を続けてきた。赤字補填の考えでは、運賃が増えると補助金が減るので、事業者のやる気を生まないとの考えがある。本市の考え、今後の方針を尋ねる。 (3) バス利用者を増やす努力を笠岡市、事業者はどう考え、どのように取り組んできたのか、また、取り組むのか、尋ねる。 (4) 井笠バスカンパニーによる運行が始まった当時、両備グループの小嶋代表は、行政が中心となり、市民の考えや要望に従って路線網の整備をし、運行を交通事業者に委託する公共交通、いわゆる「公設民託」の考えを強調された。本市においては、今もこの考えは変わっていないか、尋ねる。また、「公設民営」とどう違うのか尋ねる。 (5) 地域交流の拠点として整備された美の浜の「交通交流センター」は市民の出入り、利用が少なく、名称のと通りの活用ができていない。本市としてどう考えるか、尋ねる。	市長 〃 関係部長 〃 〃
--	--	--

	2 ギャンブル依存症対策について	(6) 公共交通を守り継続していくために、行政や事業者が努力することは必要である。さらに、市民と共に公共交通を守り育てていくことも大切であるとする。そのために、何をどのように取り組んでいくのか、尋ねる。 (7) バス、タクシー共に、運転手不足が深刻になってきている。他の市町村の中には、スクールバス、施設送迎などの共同送迎を模索する動きもある。本市の考えを尋ねる。 競輪、競馬、パチンコなどの賭け事に熱中するあまり、日常生活の中で、経済的・社会的に支障を来している人がいる。賭け事への衝動を抑えられなくなるギャンブル依存症に陥っている人とその家族がいる。本人や家族の悩みは深い。 こうしたギャンブル依存症について、本市の現状と対応、対策について尋ねる。	関係部長 〃 関係部長
7 山本 聡	1 次期笠岡市総合計画策定に当たって	笠岡市の未来戦略である総合計画の考え方について、第7次総合計画を基本的には踏襲しながらも、人口減少が続き、少子高齢社会の現下、活性化を目指しながら社会全体がダウンサイジング、戦略的に賢く縮小して行くことも、問われています。 今秋発表された事業の見直し計画においては、大規模ハード事業の凍結やイベント等の廃止を含む大胆なスリム化を進めていく内容となっています。併せて行政組織のスリム化も提案され、将来設計の基本的なスタンスが示されています。 総合計画の計画策定の考え方(意義と目的)を以下の視点で伺います。 (1) 笠岡市の“魅力”のK P I (総合指標)は何か。	市 長

	2 都市計画マスタープランについて	(2) まちづくりの視点で、地域コミュニティをいかに確立させるか。(組織の統廃合など) (3) 医療体制の統廃合、再編は可能か。 (4) 事業者の育成と継承の戦略について (5) 宅地の開発、企業の誘致の戦略について 市の総合計画を踏まえ、笠岡市の現況、市民意識に鑑み、社会課題及び市が抱える固有の課題など整理し、あるべき姿を示す必要があります。土地の有効利用や市街地の整備、環境保全などに配慮しながら、景観形成の方針や防災方針も必要です。 市長は駅前周辺の整備に伴う駅南口再開発は当面凍結の方針ですが、ソフト的な改善策は今後も間断なく継続的に実行する必要があると考えます。広域的には岡山市、倉敷市及び福山市に囲まれながら職住近接の就業、定住空間が期待される場所であり、アイデア、施策が待たれる場所です。以下についてお尋ねします。 (1) まちづくりの基本的手法について (2) 市民活動との連携について (3) ワークショップの開催について ※つやま城下ハイスクール(2024 グッドデザイン賞、高校生ファースト) (4) まちづくり課の役割について (5) 都市計画区域外の環境整備について(島しょ部)	市 長 〃 〃 〃 市 長 〃 〃 〃 〃
8 村上 太志	1 笠岡市における「インクルーシブ教育」について	2012 年に文部科学大臣の諮問機関である中央教育審議会が、インクルーシブ教育システム構築の報告書を出し、インクルーシブ教育に大きく舵を切っております。笠岡市でも、笠岡市教育委員会が提示する「笠岡市教育委員会における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領に係る「学校教育分野の留意点」」の中	

		などでも、インクルーシブ教育について言及しております。 学校は、市民社会を原体験する場所であり、いろいろな子供たちが、一緒に笑ったり、泣いたりできるような場所であることが望ましいと、私自身も思っております。 (1) 笠岡市における、インクルーシブ教育の捉え方と、具体的な取組についてお尋ねいたします。 (2) 笠岡市教育委員会における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領に係る「学校教育分野の留意点」の中で、「幼児教育段階、小学校・特別支援学校小学部の入学時点において、意思の表明の有無に関わらず、幼児及び児童に対して適切と思われる支援を検討するため、幼児及び児童の障害の状態等の把握に努めることが望ましいこと」とありますが、具体的に、どのような取組をなされているか、お尋ねいたします。	教育長 〃
	2 笠岡市における、保育施設の在り方について	笠岡市における、就学前児童数は、令和6年度1,229人と把握しております。10年前の平成27年度の2,037人に対しては800人減。昨年度の令和5年度の1,316人と比較すると、87人減となっております。 そのような現状の中、公立・民間を含めた保育所等では、1,133人の定員に対して、858人の児童が入所しております。定員に対しては300人割れ、充足率としては75%と把握しております。 この数字を見る限り、待機児童問題はなく、笠岡市においては、施設の数や規模、定員数などを考慮していく段階にあると思っております。	

		(1) 笠岡市では、公立保育施設と民間保育施設とで、どのように役割を分担されているのかお尋ねいたします。 (2) 定員の空き状況も考慮しながら、現在、里庄町や浅口市を含めた井笠地域から、ルールを緩和させ広域入所を受け入れているかと思います。現状で90人を超えていると把握しております。この人数は、既に中規模の保育施設、一園分に相当するかと思います。該当する市町の間で、特別な補助金のやりとりを設けているのか、設けていない場合は、今後そのような意向があるのかお尋ねいたします。	関係部長 市 長
9 守屋 基範	1 笠岡市財政健全化プラン(素案)について	(1) 年10億、10年で100億という財政危機の情報開示の手法におけるメリットとデメリットについてお尋ねします。 (2) 今回の笠岡市財政健全化プラン(素案)の策定の経緯についてお尋ねします。 (3) プランに対してのパブリックコメントを募集されていますが、具体的に寄せられた意見はどのように処理されるのか。また、今後修正の余地はあるのかお尋ねします。 (4) 歳出を大幅にカットしていますが、歳入確保の具体案についてお尋ねします。 (5) 栗尾市長の公約の中の「暮らしを支える」という項目の福祉の事業が廃止されていますが、福祉事業に対する今後の方針をお尋ねします。 (6) この笠岡市財政健全化プランを実行することで新しい笠岡のイメージ作りを進めると書かれています。 市民が行政と共に取り組むために、2年後、3年後でもいいのですが希望(光)の部分をお聞かせください。	市 長 〃 〃 〃 〃 〃

	2 機構改革について	(1) 策定目的，経緯と今後の協議についてお尋ねします。 (2) 定住促進センターの廃止についてですが，関係人口が叫ばれている中，市外の方々の移住については，単なる空き家へのマッチングではなく，人材をいかに笠岡へ呼び込むかの視点での生活と仕事も含めたトータルでの取り組みが求められると考えますが，いかがお考えですか，お尋ねします。	市 長 〃
10 真鍋 陽子	1 令和6年10月27日執行岡山県知事選挙・衆議院議員総選挙について	(1) 令和6年10月27日，岡山県政史上初となる岡山県知事，衆議院議員ダブル選挙が行われた。 衆議院議員総選挙については解散から投票開票まで18日間という準備期間の短さから，期日前投票日前に投票所入場券が届かないというケースが全国各地で起こった。笠岡市内における投票所入場券の発送状況，有権者において混乱はあったのか，あった場合における対応について尋ねる。 (2) 岡山県知事選挙の投票率は53.90%と令和2年34.45%から19.45ポイント上昇。県内平均50.47%よりも3.43ポイント高い。 一方で衆議院議員総選挙の投票率は53.71%で岡山県平均50.24%よりは3.47ポイント高いが全国平均53.85%より0.14ポイント低い。 この現状をいかに捉えているか，また今後の課題について尋ねる。 (3) 若者の投票率の低さが依然，課題だ。令和3年10月31日執行衆議院議員総選挙においては18歳の投票率は54.17%だが，今回は48.66%と5.51ポイント低下している。若者の投票率向上における今後の課題について尋ねる。	選挙管理委員長 〃 〃

		(4) 投票所来場カードがあるなら欲しかった、どこにあるのかわからなかったという声が届いている。周知方法やわかりやすい置き場所について、改善策を尋ねる。	選挙管理 委員長
	2 岡山県みどりの食料システム戦略基本計画に基づく笠岡市における取組について	(1) 岡山県は県内全ての市町村と共同で「岡山県みどりの食料システム戦略基本計画」を策定、支援を実施している。 笠岡市として活用している県の支援はあるのかを尋ねる。 (2) 岡山県は2030年度までに国際水準以上の有機農業取組面積を300ヘクタールに拡大するとしている。現在パブリックコメントを募集中である第4次晴れの国おかやま生き生きプラン(仮称)においては令和5年度176ヘクタールである有機農業取組面積を250ヘクタールまで拡大するという指標が入っている。これに伴い、笠岡市として具体的な数値目標はあるのかを尋ねる。 (3) 地域環境保全システムでもある有機農業、自然農業について市長はいかに考えているのかを尋ねる。	関係部長 〃 市 長
	3 笠岡市財政健全化プラン(素案)について	(1) 笠岡市財政健全化プラン(素案)においては国や県の方向性とは逆行する形で環境保全型農業直接支払事業が廃止とされている。その意図について尋ねる。 (2) 指定ごみ袋無料配布事業は、有料化も視野に入れて検討するのかを尋ねる。 (3) 市内在住者で非雇用型の就労継続支援事業を行う事業所、または地域活動支援センター事業を行う事業所において生産活動を行ったものに対して1日当たり200円の就労奨励補助金を交付している障害者等就労奨励補助金を3年かけて段階的に廃止する方向性が示されている。	市 長 〃 〃

		重度心身障害者成人奨励金、寝たきり身体障害者等介護助成費も実績がわずか、実施している自治体が少数であることから見直しがあり廃止となっている。障害のある方々の数はそもそもの母数自体が少なく、それゆえ物的にも心理的にも社会整備が行われていないことも多く、当事者や御家族、御親族の方々は感じる事のない社会の壁に日々、直面しながら生活をされていることも多い。 財政健全化のため金銭的な補助は少なくなるが、代わりに今後はより積極的に「心のバリアフリー」を目指し、差別や偏見のない、どんな障害があろうとも暮らしやすい笠岡市を目指す、そのために予算はかけられなくとも知恵を出し、できるだけ具体的に取り組むことはできるか。できるとしたらその具体策は何か。市長の考えを尋ねる。	
4 学校教育について	(1) 2022 年 12 月、文部科学省「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」において、通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒は、小中学校では 8.8%，高校では 2.2%であると明らかにされている。 小中学校 35 人学級であれば 3 人程度というこの数をいかに捉えているか。また、学校教育現場における実感や実態と合っているかを尋ねる。 (2) 多層指導モデル M I M の活用が進んでいる学校と進んでいない学校の差はどこにあるのかを尋ねる。 (3) 現在、笠岡市内学校教育現場において W A V E S をどのように活用されているのかを尋ねる。	教育長 〃 〃	

		(4) 合理的配慮が必要と認められる児童生徒が高校入試において合理的配慮を受けることができる支援体制が笠岡市において整っているのか尋ねる。	教育長
		(5) 笠岡市内小・中学校の児童・生徒数が減少傾向にある中、現在学校規模適正化計画書改訂版(骨子案)の策定に向け方向性が示されている。笠岡市の義務教育において、もっとも重要だと考えられていることは何かを尋ねる。	〃
		(6) 学びの多様化学校とは不登校児童生徒の実態に配慮して、特色ある教科を新設したり、総授業時間数を削減したりするなど、特別の教育課程を編成して教育を実施できる学校で、岡山県内においては令和7年4月1日美作市において中国地方初となる樸学園が設置される。 神島外小学校を将来的に学びの多様化学校にする計画はあるのかを尋ねる。	〃